

# 琉球大学学術リポジトリ

## 猛暑期における鶏の飼養管理

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学農家政学部 公開日: 2011-05-12 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 古謝, 瑞幸, Koja, Zuiko メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/20.500.12000/19631">http://hdl.handle.net/20.500.12000/19631</a>

○日前に播種すればよい。播種量は坪当三合播が標準である。厚播きになれば良苗は得られない、入念に均らした床面に種籾を厚薄のないように均播する。坪二合播では一寸平方に一畝宛種籾がまかれることになるが特に床の周辺だけは苗が過大に育ち勝ちであるから倍量位播くとこの点は是正出来る。播種後は板で軽く摺り込んで種籾が移動しないようにする。

### (六)、管理

健全な発芽をすれば幼根と幼芽が同時に伸び酸素が不足すれば幼芽のみ伸びて幼根は伸びない。ころび苗、沢苗の出来るのは発芽の時深水に放置しすぎて、酸素不足になるからである。又二期作では苗代の温度が高くなりすぎて苗が徒長し、むれることがある。従つて二期作の苗代管理で特に大切なことは灌漑水の掛け引きに注意し、土じよ中の酸素や温度を適度に調節することである。床面は亀裂を生じない程度に水を制限して土じよ中に酸素を供給し時々水を混える。又必要に応じて掛流しを行い出来るだけ土じよ温度が高くなり過ぎないように工夫する。その他雑草防止や病害虫防除も大切な作業である。

### (七)、苗代日数

田植えに適当な苗の状態を示すのに例えば一期作では四五日苗が良いとか、二期作では二〇日苗が良いというように普通苗代日数を用いているが、日数で示すよりも苗令で考えた方が合理的である。即ち苗の本葉が何枚の時に植えた方が良いかという事であるが一期作では六一七令期(本葉が六一七枚)、二期作では五一六令期の苗が適当であろう。日数で云えば一期作は四五―五〇日、二期作は六一七令期の苗となり、二期作では温度が高いので五一―五〇日、二期作は五一六令期の苗になると見てよい。

田植後の分けつのはふえ方と主稈の葉の出方の関係についてみると次の通りである。仮に六令期の苗を植えたとして考えてみよう。

に五号分けつが出てくる。一、二、三号分けつは苗代が密植の

状態であつたため休眠してしまつて本田移植後はもはや出て来ない。更に第九葉と同時に六号分けつ、第一〇葉と同時に七号分けつが出るというように極めて規則正しい出方を示す。

従つて若苗(葉数の少ない苗)を用いると下位分けつが生きてくる。苗代日数の長い、従つて葉数の多い苗、例えば八令期の苗を植えると次の第九葉と六号分けつが同時に出て四、五号分けつは休眠して出て来ないのが普通である。このように分けつが出る時期は下位から上位に進むにつれておくれ出てくるが、然しそれらの分けつは出穂期は殆んど同じである。従つておくれ出た上位の分けつ程、出穂までの日数は短くなり葉数も少い。葉の数と穂の大きさとの間には密接な関係があり、葉数の多い分けつ程一般に穂が大きい。又生育日数と収量の間にも密接な関係のあることは前に述べたが、このことは個々の分けつの場合にもあてはまる。即ち早く出た分けつ程出穂までの日数が長く、大きい穂をつくることになる。これらの関係を筆者の実験

結果から示すと次の通りである。(品種台中六五号)

分けつ位別	葉数	粒数	穂重
主	一七〇枚	一八六、二	四、四九瓦
一	九、一	一七八、三	四、一五
二	八、〇	一七〇、一	四、〇七
三	七、四	一五三、九	三、七六
四	六、一	一三五、〇	三、五八
五	五、五	八〇、五	二、〇八

即ち五号、六号、七号と分けつの位置が上に進むにつれて葉数、粒数、穂重が減少していく。

このように五号、六号等の下位分けつを生かすか、ころすかが増収の分れ目となる。前にも述べた通り二期作では分けつの減少することが、育上の特徴であり又減収の一因ともなるので若苗を使つて強力な下位分けつを育てさせ、穂数を確保することが増収のコツとなる。この意味から苗令は極めて重要な意義をもち、苗代日数が長過ぎないように心掛けるべきである。

(宮 里 清 松)

## 酷暑期における鶏の飼養管理

夏は鶏にとっては最も渡き難い季節である。

沖縄は戦時急速に養鶏熱が高まつて今日では専業、副業として一般に広く普及されつゝある。

ところが高温多湿という養鶏事業に最も不利な自然環境を通過しなければならぬことは残念である。

鶏は他の動物と異つて汗を出すことが出来ず、炎暑に対しては抵抗力の弱いものである。

夏季の管理を怠ると鶏の衰弱は勿論、産卵率を低下せしめ、ひいては最盛期たる次春の産卵も破算におちいることがある。沖縄の冬における最低気温は普通セツ氏七度から九度位であるが、養鶏するに当つてはこの位の寒さは殆んど無視しても差仕

えないが、然しことセツ氏三千度以上の高温となるとそれに対する鶏の管理は決しておろそかにすることは出来ない。故に鶏舎を設計する場合は寒さよりも暑さを考慮に入れてなされなければならない。

それでは暑さを考慮しての鶏舎とはどんなものかと申しますと、

### 一、鶏舎の設計

#### (1)、位置

小高く、風通しのよい場所、夏涼しく、そして周囲にどぶのない処を選ぶ。

#### (2)、設計

風通しがよい様に窓をなるべく広く開けた方がよい。勿論暴風に吹飛ばされない注意が肝要である。

余り採光や換気のみを配ると昼夜の気温に差を生じ結果がよくないと言われている。即ち、例えば十二坪の鶏舎を設計するに間口六間、奥行二間よりも、日光の射入量は少くとも間口四間奥行三間の方が鶏の健康に良好である。又これは経費の面からも多少経済的である。屋根はトタンよりも、有合せのカラー、ワラ、キビの枯葉、或いは板張りが良い。

### (3)、収容羽数

鶏の種類や鶏小屋の大きさによつて差はあるが、大体一坪に対して白色レキホーンならば一〇二羽位、プリマスロック、ニューハンプシャー等のように体の大きいのは七一〇羽位が

適当とされている。

### (4)、運動場

屋外運動場は広い程良いが、経費の関係上五六坪に対して二坪の割合が良い。

炎熱をさげるためには上は柵を作つてヘチマ、ニガウリ、ユウガオ、ブドウ、その他適当な果樹を植ると一石二鳥の利益を得ることが出来る。但し他の木を植える場合は冬季の日光の射入を充分ならしめるため秋に落葉するものを選ぶ方がよい。

### (4)、防風垣

現在沖縄では余り見受けられないが、特にバター鶏舎においてはその周囲に暴風対策として適当な垣根が必要である。こゝで考へるべきことは通風の便もよく計つて鶏舎の幹よりも高く伸ば

さないことである。それにはブツソウゲ等のように成長が速くて管理の易いものがよい。或いは目板やポット箱等を取りくずして利用することも考へられる。

### 二、水

水と言ふは夏、夏と言へば水と言われる如く、鶏を管理するに当つて強調したいことは水である。これは産卵に影響することとは勿論鶏の健康を左右するものである。鶏も人間同様に清潔を好むものでどぶ水や他の汚水等でも我慢して卵を生んでくれると思つたら大間違いで

ある。常に澄みきつた新鮮な水を充分飲ますることが肝要である。飲水器は日の当る所をさけ水を出来るだけ冷めたくすると共に水洗のため取はずしが便利な所に置いた方がよい。練餌を食つて後など、クチバシに餌がついたまゝ飲水するので水は腐れやすいから少くとも一日三回は取かえる必要がある。

普通一日三回の取かへるために飲水器の上に水を一杯入れた一升ビン等を逆立させて用いているが、これも結構なことである。

### 三、飼料の給與

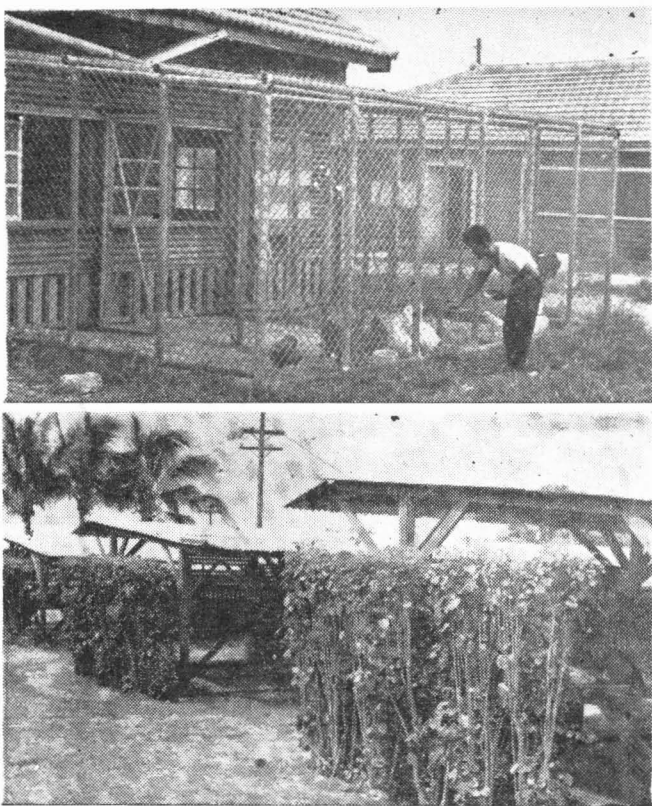
気温が高いため、鶏の食欲の減退も著しいものがある。それを防ぐために飼料は出来るだけ自質のものを選び、朝夕の涼しい時に十分に食べさすように心掛けることが大切である。

現在本学部においては、飼料費の節約と言う見地からイモを利用する試験をやつてゐるが、イモを混ぜると鶏の食欲を増すようである。(現在産卵鶏一日一羽につき、イモ一三匁、配合飼料一三匁、その他不足する蛋白質を補うために若干の大豆粕と魚粉を与えている。即ち全量を約二六匁として各々半分ずつ与えているわけである。(但し練餌は別に与へている)。鶏は粉よりも練餌(ねつたえさ)を好むから握つても汁がにじみ出ない程度にねつて与へた方がよい。

次に湿度について考へねばならない。空中の湿度は勿論、床や運動場の湿ることは、種々のしつ病を起す原因となる。梅雨期の言うが、伝染病によつて失敗する場合は殆んどこのためであると言つても過言ではない。

鶏舎を常に乾燥に保つために室内を毎日掃除する事や敷糞を敷く事が必要である。特に酷暑期における湿度が、八〇—八五%という養鶏事業に極めて悪条件下にある、沖縄においておや。

以上述べた事を簡単にまごめてみると、夏の養鶏は、鶏のいる処を涼しくすること、栄養の多い餌を沢山食わすように心掛けること。きれいな水を充分飲むようにすること。そして鶏舎の清けつを計ることが大切である。



【写真説明】

上は琉大農家政学部畜産学科の風通しのよい鶏舎。  
下はハワイ農研所における防風垣をもつ鶏舎。

なお、蚊の退治も忘れてはならない事の一つである。蚊は鶏の血を吸うしみてなく、鶏の安みんを妨げ、且、疝気（鶏のホーン）をうつすので大害がある。

蚊の退治は毎晩鶏舎にフマキラーをまいても効果があるが、経

(古 謝 瑞 幸)

費が少し高くつく。軽油をとり木に塗っておくと、その間に、おいのために蚊が寄りつかなくなると言われている。

右、マチク苗。

与那演習林の母竹林の植付状況。

## 沖繩に現存する

# 利用価値のある竹について

### —竹の栽培— (三)

十五、沖繩に現存して利用価値のある

竹種は左のものであろう。

#### 1 シチク（ハリタキ）

八重山、北谷村に生育する太竹種で、乾燥に割に強く、挿木繁殖が容易である。繊維が強くバナナかご、其他のかご用材として使われている。

#### 2 マダケ（カラタキ）

沖繩本島各地に生育する太竹種で、適湿地ほど生育がよく、繊維も割に強く、釣竿、高級加工材、タケノコとしての用途がある。

#### 3 リヨクチク（マータク）

八重山で栽培されている太竹種で、適湿地を好む。タケノコは特に美味で其他加工用として用いられる。

#### 4 マチク

最近八重山、本部で栽培されたもので、特に太く、適湿地に生育が容易である。乾タケノコ、竹いかだ、加工用としての用途がある。

#### 5 モウソウチク（モーン）

羽地村、久志村に生育し、適湿地ほど生育がよい。タケノコ

花筒、加工用としての用途がある。

#### 6 ホテイチク（チンクダキ）

沖繩本島各地に分布する中竹種で乾燥によく堪える。釣竿、タケノコ、加工用としての用途をもっている。

#### 7 カンザンチク（ダイミヨウダキ）



与那演習林の植付直後の母竹林。



右、マチク苗。

与那演習林の母竹林の植付状況。

八重山に多く、楽器用、棚掛用、竿、加工用として使われる

#### 8 ダイサンチク（マータク）

各地村落に生育する太竹種で、適湿地ほど生育に適する。加工用、竿として用いられる

#### 9 ホウライチク（ンチヤダキ）

各村落の生垣用として栽培されている中竹種で、加工用、竿としても使用される。

### 十六、おわりに

竹は生産期間が二五年で短く、適地の範囲も割に広くて求め易く、栽培手入の如何で質と量が大幅に向上する。一方樹木的な野生性も強いので、沖繩の需要とも相まって農家の副業として又農用林としての好条件をそなえている。新材生産の立場から見ても、単位面積当りの同一年限に於ける生産数量は二五倍を見込み得る。左に栽培上の要点を列記すると

1 風当りの弱い表土の浅くない適潤地を選ぶ。